



## 小・中学校でLD・ADHD等のある子どもに適切な教育的支援を行う

### 【研究の背景】

小・中学校の通常の学級に在籍していることの多いLD・ADHD等のある子どもについては、通常の学級における配慮して行う教育的支援にはどのようなものがあり、より個別的な指導としてはどのような教育的支援ができるのか、を明らかにする必要があります。また、その両者における具体的な支援の方法について分かりやすく現場で使いやすいマニュアルが求められていました。

### 【研究結果】

- (1) LD・ADHD等のある子どもへの教育的支援の方法として文献等に報告されている575件の指導内容・方法について、自立活動に該当するものか否かについて複数の研究者による評価を行ったところ、69%が自立活動に該当するものと評価されました。
- (2) 自立活動のどの領域に該当するかについてみると、「環境の把握」が40%で最も多く、次いで「コミュニケーション」の27%、「心理的な安定」の19%、「身体の動き」の13%と続き、「健康の保持」は1%でした。
- (3) 上記の指導内容・方法やその他の文献から、通常の学級におけるLD・ADHD等のある子どもへの配慮の内容を抽出・整理して68項目の配慮項目をリストアップし、通常の学級担任を対象として各配慮項目について実施の難易度を評価してもらいました。その結果、動機付けを高めたり適切な行動を促すような配慮で、全ての児童もしくは学級全体に対して行われるような配慮は実施が容易であり、新しい教材の準備や設備／備品が必要な配慮項目は実施が困難と感じていることが分かりました。
- (4) 現場で使いやすく分かりやすいことを目指して、LD・ADHD等のある子どもに対する具体的な支援の方法をまとめた「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもへの指導ガイド」を作成し刊行しました。
- (5) この指導ガイドでは、具体的な事例をあげて通常の学級における指導・配慮を提示するだけでなく、様々な事例に応用できるように、実態把握のポイント、推測できるつまづきの要因、指導の意味についても説明するようにしました。さらに個別的な指導としてどのようなことが考えられるかについても説明してあります。

### 【研究結果からの提言】

- (1) 小・中学校の通常の学級に在籍していることの多いLD・ADHD等のある子どもについては、まず通常の学級において適切な配慮がなされることが非常に重要です。
- (2) LD・ADHD等のある子どもに必要な配慮や指導の内容・方法は自立活動に該当するものが多いとはいえ、通常の学級における配慮として実施可能なものも多いことを押さえておく必要があります。
- (3) このためには、通常の学級担任がLD・ADHD等のある子どもについて理解し、できることから個々の子どものニーズに応じた配慮を行っていくことが望まれます。

### 【研究成果の効果・効用】

東洋館出版社より刊行された「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもへの指導ガイド」は多くの読者に読まれ、小・中学校等において実際に配慮・指導をする上で参考にされるようになってきております。

この指導ガイドについては、小・中学校の教師、巡回相談等でLD・ADHD・高機能自閉症等の指導経験のある特殊教育諸学校の教師、教育センター等職員の教師を対象としたアンケート調査を行って、その使いやすさ等の評価を行いました。評価は1～4までの4段階で行いました。

その結果、全体の読みやすさ・使いやすさは平均3.3であり、全体として比較的高い評価を得ることができました。

活用できるかについての質問では、以下のような評価を得ました。

	LDの指導			ADHDの指導			高機能自閉症の指導		
	活用場面がない	活用できる	工夫して活用する	活用場面がない	活用できる	工夫して活用する	活用場面がない	活用できる	工夫して活用する
教室場面	4%	89%	7%	3%	90%	8%	3%	91%	6%
個別指導	4%	85%	12%	6%	79%	15%	3%	86%	12%

## 【研究成果の活用】

### (1) 「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」の活用

小・中学校の通常の学級担任が、具体的に適切な配慮や指導をどのようにすれば良いかについて知るためにすぐ活用できるように作成しており、担任している子どもの中に記載されている事例に近い子どもがいる場合にはただちに配慮や指導ができます。担任している子どもの様子が記載されている事例とは異なっていた場合には、実態把握のポイント、推測できるつまづきの要因、指導の意味等を参考に工夫して対応することができます。

### (2) プロジェクト研究報告書

通常の学級における配慮としてまとめた68項目の配慮事項には、多くの具体的な配慮の例があげられているので、これを参考にして通常の学級における支援を考えていくことができます。

また、通常の学級に在籍するLD・ADHD・高機能自閉症の子どもについて個別の指導計画を作成するための留意点や手順、記載内容について説明してあります。

## 【関連情報】

「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」

(東洋館出版社)



本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

### 【研究課題名】

小・中学校に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の指導に関する研究—LD、ADHDの指導法を中心に—

(平成15年度～平成17年度)

### 【研究組織／問い合わせ先】

研究代表者：渥美義賢  
(メールアドレス yatsumi@nise.go.jp)

研究分担者：大柴 文枝  
海津壺希子  
小林 倫代  
是枝喜代治 (平成16年度まで)  
笹森 洋樹 サブチーフ  
佐藤 克敏  
篁 倫子 サブチーフ  
玉木 宗久  
花輪 敏男 サブチーフ  
(平成16年度まで)  
廣瀬由美子 (平成15年度)  
松村 勘由 (平成15年度)  
棟方 哲弥  
湧井 恵  
渡辺 章

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 (National Institute of Special Education; NISE)

〒239-8585 横須賀市野比5-1-1 TEL: 046-839-6890 URL: <http://www.nise.go.jp/>